

# — 新常態への航海図 —

## 業界団体トップに聞く

紫関雅美電整連会長インタビュー～日刊自動車新聞より転載～

7月27日発行の日刊自動車新聞に紫関会長のインタビューが掲載されましたので、そのまま転載します。

### ニューノーマル 新常態への航海図

業界団体トップに聞く

13

全国自動車電装品整備商工組合連合会(電整連)は、エンジン関連の電装品やエアロコン、ETCなどを整備・修理する事業者で構成する、自動車の技術革新を背景に電装部品的重要性が高まっており、特定整備でも一部業務が対象となった。コロナ禍の影響や特定整備証への取り組みなどについて紫関雅美会長に聞いた。

(谷口 利綱/梅崎 信孝)

「コロナ禍の影響は、全体を見渡すと、それほど大きくない。例年と比較して、業務量が1割削減した程度ではないか。所属する約1300社のうち、8割はサービス事業を中心としており、ディーラーや整備工場が

コロナ禍でも稼働していた。大規模事業者は、電装品の物販を行っており、コロナは販路が自立した。しかし、業界の収益はサービス事業が柱となっているため、大きな落ち込みは発生していない。整備業界では外出自粛による入庫減が発生したが、エアロコンやスタターといった電装品の修理需要は以前と変わらない。一方で、新車販売の落ち込みに伴う、用品の取り付け業務は大きな影響を受けた。カーナビやトラ

全国自動車電装品整備商工組合連合会

### 紫関 雅美会長



イブレコター、後付けの踏み間違い防止装置などだ。4、5月は、需要が半減した。

「ウィズコロナ時代に業界はどのように対応するか。われわれの業界はリモートワークができない。コロナ禍で働き方改革が急速に進んだが、現場では感染予防策を取りながら職務を行っている。そういった意味では、2月下旬からウィズコロナの働

### 特定整備制度が商機に

き方を継続してきた。その中で電気関連する整備を行うことで、ディーラーなどは特修費ついでにエーミングにも対応して、業務を実施していたため、従来よりも短時間で効率的に業務をこなす働き方は普及した。

「ポジティブな影響として、業務量が多少減ったため、余裕が生まれ、有給消化率の向上とメリハリのついた働き方が進んだ。」

4月からは特定整備制度がスタートした。電整連の組合員では、大抵3000人程度だが、今年は3000人以上が参加した。電装整備と親和性の高いガラス事業者を受け入れたため、ガラス事業者からは整備を継続する。残りの2割は認証工場となっており、多くは技術や情報に対する二

「電気関連する整備を行うことで、ディーラーなどは特修費ついでにエーミングにも対応して、業務を実施していたため、従来よりも短時間で効率的に業務をこなす働き方は普及した。」

「エーミング作業の需要は、現段階ではまだ低く、先行投資の段階だ。将来的には、電気系統のチェック、補正、修理を含め、一気通貫で行う事業者が増えるだろう。」

「特定整備主任者の対象となる電気設備整備士の講習会も実施している。『通常は30、40人程度だが、今年は300人以上が参加した。電装整備と親和性の高いガラス事業者を受け入れたため、ガラス事業者からは整備を継続する。残りの2割は認証工場となっており、多くは技術や情報に対する二

### 短時間で効率的な働き方普及

「特定整備主任者の対象となる電気設備整備士の講習会も実施している。『通常は30、40人程度だが、今年は300人以上が参加した。電装整備と親和性の高いガラス事業者を受け入れたため、ガラス事業者からは整備を継続する。残りの2割は認証工場となっており、多くは技術や情報に対する二

「今後の取り組みは、講習会の進捗状況や整備士層格の見直しなどについて連携を図っていく。特に特定整備証については今後、議論をしていかねければならない。現在の証は自動車運転免許を除くモデルへの対応が可能だ。自動車運転免許が普及した際の、業務に関する技術や知識を習得するためのテキスト、実習を行う講師の登用を考える必要がある。技術の進化で習得すべき内容は専門性が高まっていく。一方、自動車の電気関連の知識を教えられる人材は多くない。どのように取り組んでいくかが課題となる。」

